



一口100万円プロジェクト 2026年秋募集

ペルーにおける 「幼稚園の食堂建設プロジェクト」

ペルーのクスコでは、5歳未満の約6人に1人※¹が貧血で、プロジェクトの対象地を含む農村部の16.8%※²が慢性栄養失調の状態にあります。これは幼少期の身体や認知の発達に重大なリスクを及ぼし、特に女の子の人生に深刻な影を落とします。将来、母親となった際に低体重児を出産するリスクが高まり、「栄養不足の負の連鎖」が世代を超えて引き継がれてしまうのです。

※1/ ※2ともに国立衛生研究所（INS）2025年/2023年

●活動期間	2027年4月～2028年3月（予定）
●実施地域	クスコ活動地域
●おもな活動内容	- 給食に関わる教師・保護者への栄養・衛生知識とジェンダーに配慮した幼児教育に関するトレーニング - コミュニティに対する栄養・衛生知識、ジェンダーに配慮した子育てに関する啓発活動 - 給食の調理場と食堂の整備
●対象者	- 幼稚園児 24人（女の子16人） - 幼稚園教師5人（女性3人） - 園児と幼稚園に通っていない子どもの保護者140人（うち女性115人）
●予算	2,500万円

現地からのメッセージ



ママニさん
(62歳、校長代理)

現在24人の園児があり、来年には40人に増える予定です。しかし、食事をする場所が十分ではなく、雨漏りのする環境で給食を提供せざるを得ません。園児たちが安全で安心できる環境で食事をとれるよう、屋根の取り替えや調理場と食堂の改善が必要です。



アダ・メヒア職員
(プログラムマネジャー)

クスコでは、幼少期の健全な成長に必要な栄養や衛生習慣を育む学校環境が整っていません。身体や心の基盤を作る大切な時期にもかかわらず、知識や設備、体制の不足により多くの子どもが取り残されています。子どもの未来を守るため、地域ぐるみの支援が不可欠です。



プロジェクト対象地



老朽化した調理室と食堂

煮炊き用の調理室は壁が焦げ、十分な調理スペースもない



脆弱なつくりの食堂は雨漏りし窓もなく雨風をしのげない



保護者向けの啓発トレーニング（別プロジェクト）

栄養不足の「負の連鎖」を断ち切る

清潔で安全な食堂と、栄養を学ぶ環境を



一口100万円
プロジェクト

ペルーにおける
「幼稚園の食堂建設
プロジェクト」

2026年秋募集

ご支援いただくと

- お名前の入った記念プレートを設置します
 - プロジェクトの進捗報告書をお届けします
 - 活動地域をご訪問いただけます*
 - 節税にもなる税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けられます
- *現地事情により訪問できない場合があります

期間：2026.10/1(木)～2027.1/29(金)

プロジェクトに関するお問い合わせは、下記へお気軽にご連絡ください。

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

「一口100万円プロジェクト」担当

Mobile: 080-7739-3430 TEL: 03-5481-6100 E-mail: hello@plan-international.jp

※ウェブサイト「一口100万円プロジェクト〈ペルー〉」紹介ページのフォームからも、お問い合わせ・お申し込みいただけます



オンライン説明会を11月28日(土)11時に開催します。詳しくは上のQRコードからご確認ください。

女の子の未来プランを変えよう。



ご支援ありがとうございました！

過去に実施した一口 100 万円プロジェクトのご報告

バングラデシュにおける教育支援（2024 年春募集） 「学校の衛生環境を整えるプロジェクト」

バングラデシュの学校では十分な衛生施設のある割合が 43%※¹と低く、男女別トイレの設置率も 22%※²です。トイレ不足は初潮を迎えた女子生徒の就学を阻む一因となっています。特に北部のニルファマリ活動地域では、屋外排泄による飲料水汚染などの課題が深刻で、適切な衛生習慣の理解も浸透していない現状がありました。

※ 1 Unicef, JMP-WASH-in-schools-2022-data-by-country
※ 2 The National Hygiene Survey 2018



学校に一つしかなかったトイレ

学校に男女別のトイレなどの衛生施設を建設するほか、衛生に関する啓発・トレーニング、清潔な生理用ナプキンの利用を含めた月経衛生管理に関する研修を行い、子どもたちが衛生的な環境のもと、思春期の大切な成長期に安心して教育を受けられるよう支援しました。



対象校の女子生徒たち



ラベヤさん（8 年生）

「以前の学校はトイレや水が不足していたので、使用を我慢したり生理中は休んだりするしかない状況でした。今では生理中も安心して通学できます。自分たちが大切にされていると感じ、前より自信もつきました。女の子たちが安全で快適に過ごせる環境を整えてくださり、心から感謝しています」



成果 1

5 校に男女別トイレと手洗い場を建設、 22 校で既存の衛生設備の修繕を行いました

トイレ内には手洗い設備、鏡、扇風機等も備わり、安全に水も飲めるようになりました



完成したトイレの内部



新設された男女別のバリアフリートイレ

修繕された男女別トイレ

成果 2

衛生用品（石けん、生理用品など）の継続的補充の枠組み作り

中学校と地元業者と話し合いを行い、
35 校の生徒 **125 人**（うち女の子 **117 人**）、教師 **118 人**（うち女性 **50 人**）が参加
中学校が生理用ナプキンを共同購入し補充できる体制が整いました



地元の若者起業グループから供給された生理用ナプキンを受け取る対象中学校



トイレの棚にストックされた生理用品

シャムさん（8 年生）

「衛生設備のモニタリングに参加し、トイレなどの設備不足で女子生徒が学校を休んだり早退したりしていたことを知りました。このプロジェクトを通じて、女の子をからかったりせず、正しく理解して相手を尊重し、お互いに協力し合うことが大切だと学びました」



成果 3

生徒、教師、および若者クラブメンバーへの水と衛生の意識啓発

絵や作文のコンテスト、正しい手洗いのデモンストレーションなどを実施、
計 **16,483 人**（女の子 **9,056 人**、男の子 **6,405 人**、女性 **263 人**、男性 **759 人**）が参加し衛生について学びました



正しい手洗いのデモンストレーション



水と衛生に関する情報を級友たちに伝える衛生委員

カムルザーマンさん（社会福祉局職員）

「子どもたちが良い衛生習慣を身につけて家庭でも実践するようになり、それによって保護者や地域リーダーなどコミュニティ全体にも前向きな変化が広がっていくのを実感しました。プロジェクトの成果は学校にとどまらず、家庭や社会全体へと広がっています」



ご支援者の声

トイレがきれいになることで、女の子が幸せに自信をもって生きていけるようになるということを知り、想像もしていなかった分、お役に立てたことを嬉しく思います。プレートに名前が記されたのを見て、何も世の中に貢献できる人生ではなかったけれど、人生の終盤に少しは役に立てたのかなと感じています。（M・Sさん 千葉県）

蛇口をひねればきれいな水が出てくるのが当たり前の生活をしていると、世界にはまだまだ飲み水にも不自由な地域があることを忘れがちです。一人では何もできませんが、このようなプロジェクトに参加できて感謝です。（M・Fさん 大阪府）

プラン・スポンサーシップの活動で築いた
地域との信頼関係を基盤に、
短期間に大きな資金で実施するプロジェクトは、
地域支援の成果を一層加速させます。



illustration by Noriyuki Goto